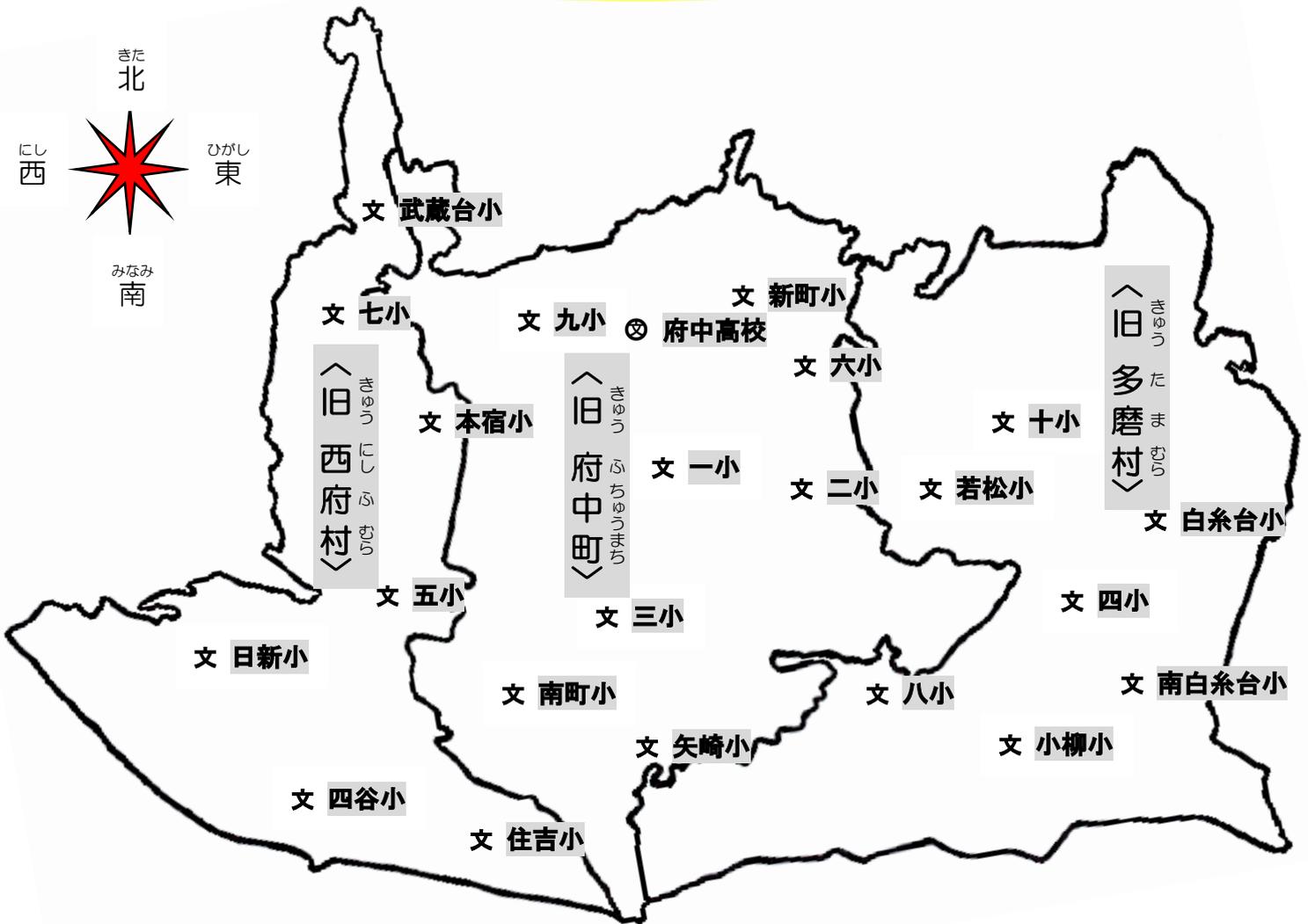
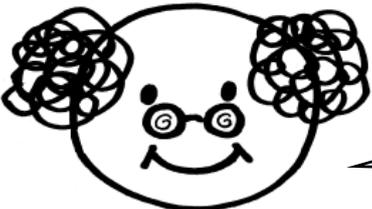
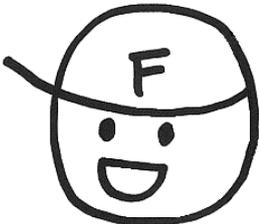


むかしの府中の学校 がっこう



むかしの子ども達はどこで勉強していたの？



江戸時代には手習塾と呼ばれる場所が
あって、そこで勉強していたんだよ。



てならいじゆく
手習塾

えど じだい こ たち よ か にかき・そろばんなど、にちじょう せいかつ ひつよう おし
江戸時代、子ども達に、読み・書き・そろばんなど、日常の生活に必要なものを教え

がっこう かみがた げんざい かんさい ちほう てらこや よ
る学校のようなところがありました。上方（現在の関西地方）では寺子屋と呼ばれ、

えど げんざい とうきょう く ちゅうしん ちいき てならいじゆく てならいじよ よ
江戸（現在の東京23区あたり）を中心とした地域では手習塾とか手習所とか呼

ばれ、そうりよ ぶし しんかん ひとたち ひら こ てならいじゆく ぜんこく ひろ
ばれ、僧侶や武士、神官などの人達が開いていました。その後、手習塾は全国に広

がりました。

こうしょう
府中市立小学校の校章

府中第一小学校 	府中第二小学校 	府中第三小学校 	府中第四小学校 	府中第五小学校
府中第六小学校 	府中第七小学校 	府中第八小学校 	府中第九小学校 	府中第十小学校
武蔵台小学校 	住吉小学校 	新町小学校 	本宿小学校 	白糸台小学校
矢崎小学校 	若松小学校 	小柳小学校 	南白糸台小学校 	四谷小学校
南町小学校 	日新小学校 	<p>こうしょう 校章はそれぞれの とくちょう 学校で特徴があるね！</p>		

きゅうふちゅうまち
旧府中町の小学校（府中市立府中第一小学校）

めいじ はじ きゅうふちゅうまち てならいじゅく はらだじゅく さとみじゅく
 明治の初め、旧府中町には手習塾として「原田塾」や「里見塾」がありました。



この二つの塾は学制が公布された際にそれぞれ公立小学として「成蹊学舎」、「至誠学舎」と名前を変えました。明治8（1875）年6月、通達により二つの学舎は合併して「府中学校」と呼ばれるようになります。当時は安養寺（本町1-17）を仮校舎とし、全校で百数十名の児童が通っていました。

まへ むさし きょうど ひょうしき
<一前の武蔵府中郷土かるたの標識>

その後、明治18（1885）年4月、現在の市役所の場所（宮西町2-24）に平屋（1階）建

て校舎をつくって移転しました。明治19（1886）年4月の第一次小学校令により、明治20年（1887）年4月から尋常科3学級と高等科1学級の編成になりました。明治25（1892）年4月には「府中尋常高等小学校」という校名に変更されます。やがて児童の数が増えるにつれ校舎が手狭になり、新しい校舎をつくる必要になりました。昭和10（1935）年3月から新校舎の建設が始まり、翌11（1936）年10月、現在の場所（寿町2-6）に完成しました。木造二階建て、普通教室（35室）、特別教室（5室）、職員室・衛生室など（7室）、廊下の長さは

1階と2階合わせて580メートルにもなる当時としては大きな建物でした。

やがて第二次世界大戦が始まり、昭和16(1941)年3月に国民学校令が公布され、

「府中国民学校」と改称されました。戦後、昭和22(1947)年3月31日、教

育基本法・学校教育法が公布され、4月1日に「府中町立府中小学校」となり

ました。当時の児童数は3000人近くいたので、教室が足りなかったため、全体を

二つに分けて1日に2回授業を行っていました。9月に「府中第二小学校」が開校

したため、「府中第一小学校」から児童573人が移り、昭和23(1948)年6月2日に

校名を「府中第一小学校」に変更しました。しかし、「府中第二小学校」が開校してか

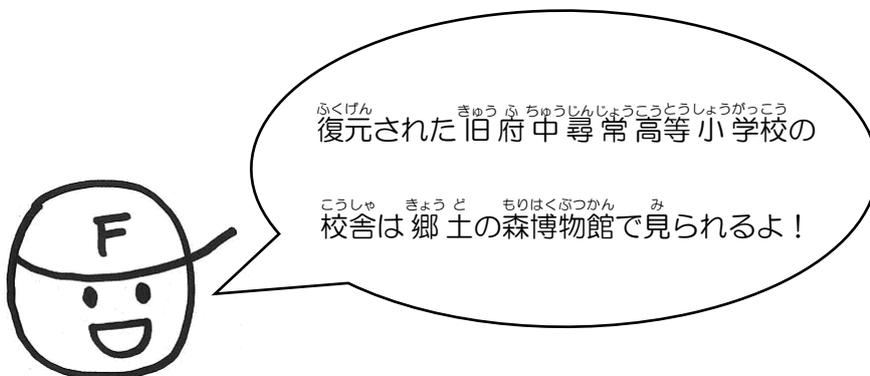
らも「第一小学校」の児童数は増え続けたため、新たな小学校をつくることが決ま

り、昭和28(1953)年4月、高安寺の近く(片町3-5)に新しく「第三小学校」

が開校しました。

そして昭和29(1954)年、府中町・多磨村・西府村が合併して府中市となり現在

の「府中市立府中第一小学校」となります。



＜旧府中尋常高等小学校＞

児童の昼食はそれまで麦めしなどの弁当を持ってきていましたが、昭和35
(1960)年に一小でも学校給食が始まりました。プールができたのはそれから5
年後の昭和40(1965)年です。

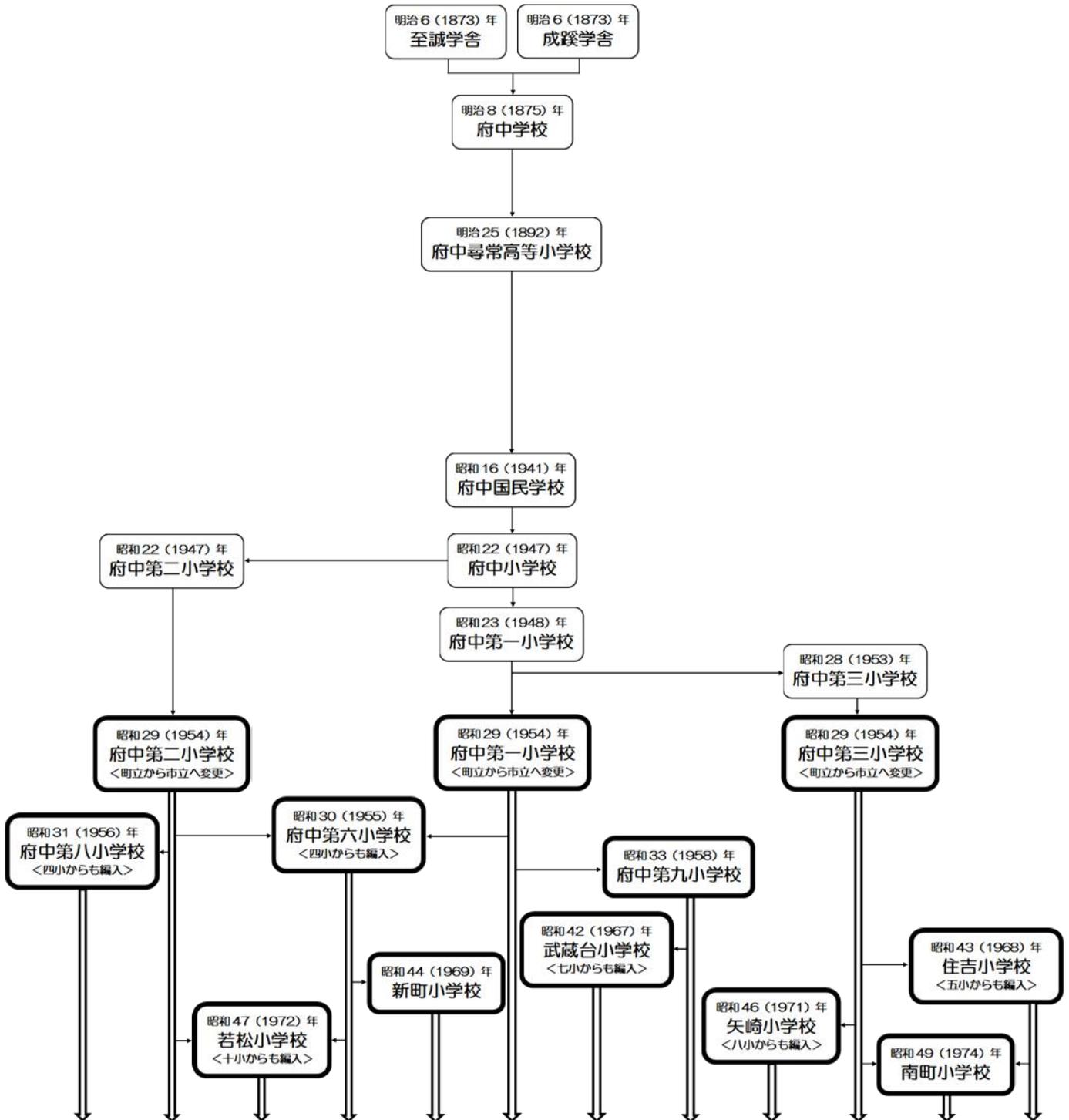
昭和55(1980)年の改築を最後に、木造校舎は姿を消しました。しかし卒業生
を中心に保存してほしいという声があがり、一部が昭和58(1983)年3月に郷
土の森博物館の敷地の中に復元されました。

昭和39(1964)年に結成された鼓笛隊は、長い伝統をもつ特色ある活動で、現在
も桜まつりパレードや福祉まつりなど、多くのイベントで活躍しています。



<一小の校舎(令和2年3月現在)>

旧府中町の小学校の歴史

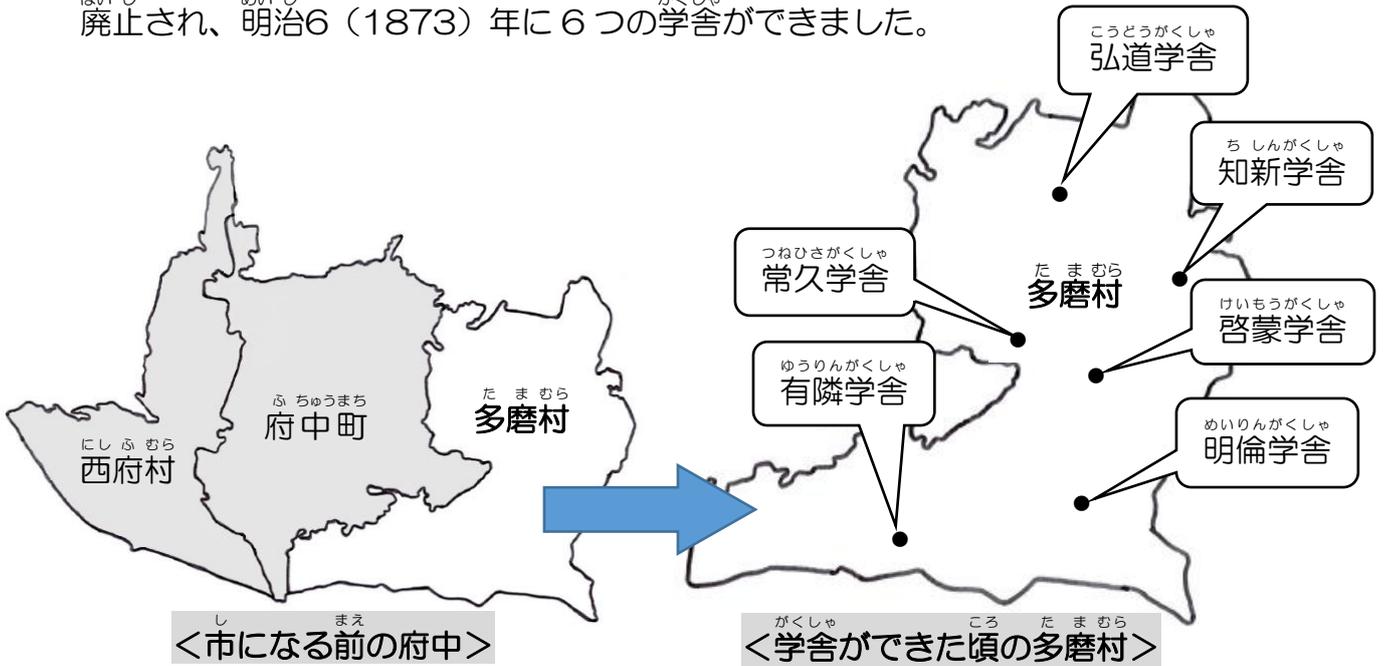


きゅうた まむら
旧多磨村の小学校（府中市立府中第四小学校）

府中市立府中第四小学校がある市の東側、旧多磨村の地域には、江戸時代からいく

つかの手習塾がありました。明治5（1872）年に学制が公布されると手習塾は

廃止され、明治6（1873）年に6つの学舎ができました。



そして、明治8（1875）年の通達によって、是政村の「有隣学舎」は「是政学校」、

上染屋村と人見村の「弘道学舎」は「人見学校」、常久村と小田分村の「常久学舎」は

「常久学校」、車返村の「啓蒙学舎」は「車返学校」、下染屋村の「知新学舎」は

「染屋学校」、押立村の「明倫学舎」は「押立学校」に名前が変わりました。その後、

「人見学校」と「常久学校」は合併して「協立学校」に、「車返学校」と「染屋学

校」と「押立学校」は合併して押立に分校を持つ「玉流学校」となります。

明治22（1889）年になると、府中市の東側にあった8つの村（是政村、上染屋村、

人見村、常久村、小田分村、車返村、下染屋村、押立村）は合併し、多磨村となり

ます。この頃、多磨村には「是政学校」、「協立学校」から再び分かれた「人見学校」と「常久学校」、そして「玉流学校」の4つの小学校がありました。

その後、第二次小学校令が公布され、明治25年（1892）年に「是政学校」、「人見学校」、「常久学校」は是政に分校を持つ「文徳尋常小学校」に、また「玉流学校」

は押立に分校を持つ「精華尋常小学校」となりました。明治35（1902）年6月10

日になると、この2校が合併して是政に分校を持つ「多磨尋常高等小学校」が開校し

ます。初めの頃は下染屋にあった観音院（白糸台3丁目）や「文徳尋常小学校」「精

華尋常小学校」で授業を行っていましたが、明治36（1903）年になると、多磨

村の中央部にある車返にできた新しい校舎に移転します。その後、昭和16

（1941）年に国民学校令が公布されて「多磨国民学校」に、終戦後の昭和22

（1947）年には教育基本法・学校教育法が公布されて「多磨村立多磨小学校」と

名前が変わりました。

昭和29（1954）年4月、多磨村、府中町、西府村が合併して府中市が誕生する

と、「多磨小学校」は府中市立の学校になりました。その半年後、11月1日には現

在の校名である「府中第四小学校」となります。その後、児童の数が増えていくと、

昭和30（1955）年には「府中第六小学校」が開校して「四小」から児童の一部が

転出していきました。また、是政高田（現在の是政1丁目）にあった「四小」の分

校「是政分校」は昭和31（1956）年8月に廃校となり、同じ年の9月1日に「府

中第八小学校」として開校し、同じように「四小」から児童が転出していきました。

それから「府中第十小学校」、^{しらいとだい}「白糸台小学校」、^{みなみしらいとだい}「南白糸台小学校」そして「小柳^{こやなぎ}」



＜^{こうしゃ} 四小の校舎（^{れいわ} 令和2年3月現在）^{げんざい}＞

小学校」が^{かいこう}開校したことなどにより、「四小」からさらに^{じどう てんしゅつ}児童が転出していきました。

^{しょうわ}昭和34（1959）年に府中市で初めての学校給食が「四小」で始まり、^{しょうわ}昭和38

（1963）年には^{かいだ} 3階建ての鉄筋校舎が^{てつきんこうしゃ}つくられました。また、^{しょうわ}昭和40（1965）

年にプールが、^{よくなん}翌年には^{たいいくかん}体育館ができました。^{しょうわ}昭和48（1973）年には創立から100

周年を迎え、^{むか}記念像として「^{きねんぞう}多磨っ子の像」が^{たま こ ぞう}建てられました。^{おお}多くの児童が^{じどう}巣立っ

ていき、その^{れきし}歴史は^{いま}今なお^{つづ}続いています。

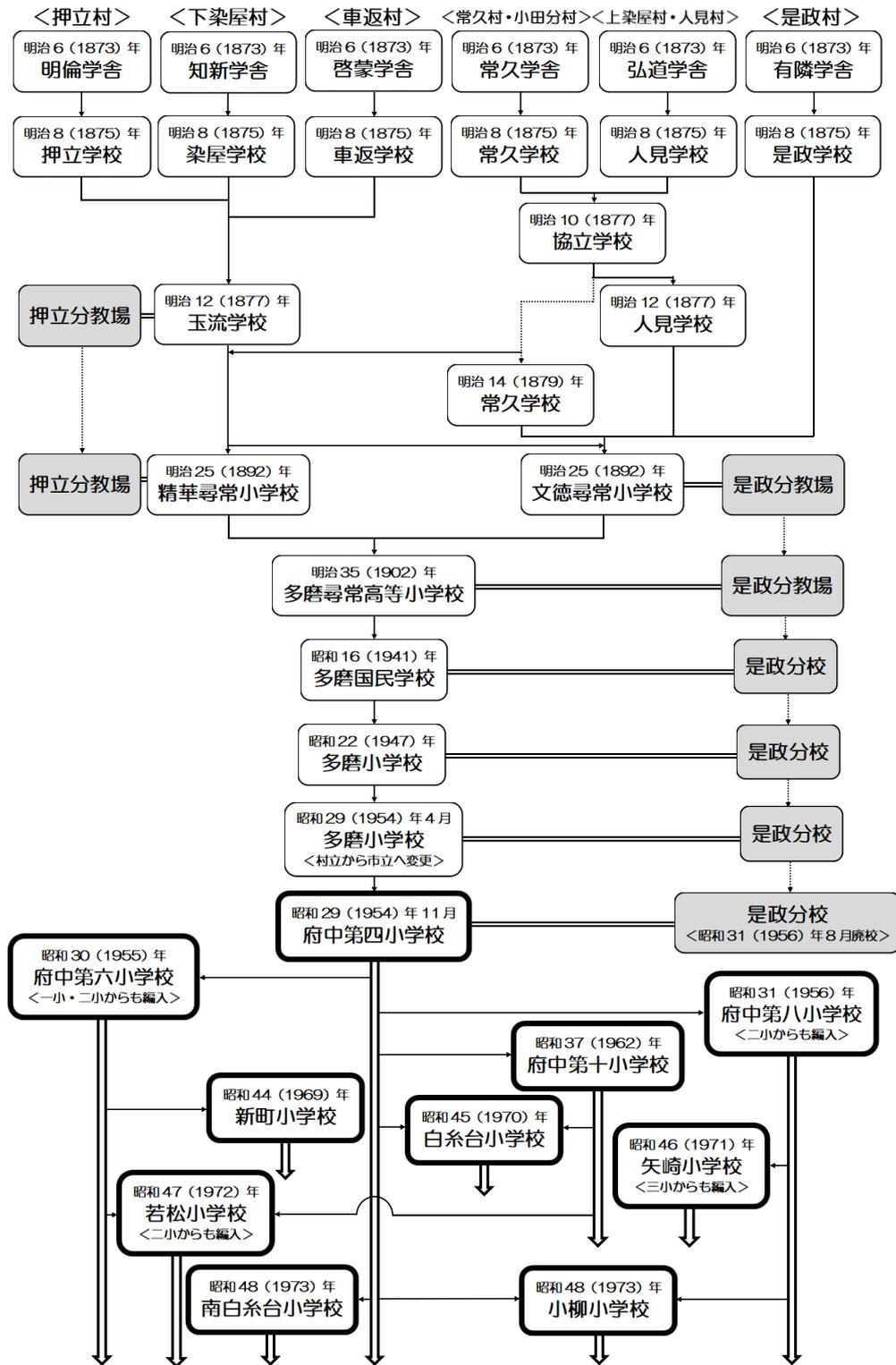
＜^{むらの} 村野 ^{しろう} 四郎＞

^{えき} 駅の下りホームで^{でんしゃ} 電車の^{せつきん} 接近を知らせるメロ
ディーとしても使われている『^{ぶんぶんぶん} ぶんぶんぶん』や、^{そつぎょうしき} 卒業式で歌われる『^{すだ} 巣立ちの歌』を
^{さくし} 作詞した^{むらの} 村野^{しろう} 四郎は、「四小」の^{ぜんしん} 前身である
「^{たまじんじょうこうとう} 多磨尋常高等小学校」の^{そつぎょうせい} 卒業生です。「四
小」の^{ひゃくしゅうねん} 百周年を記念して作成された^{きねんぞう} 記念像
『^{たま} 多磨^こ っ子^{ぞう} の像』には、^{むらの} 村野^{しろう} 四郎が^{さくし} 作詞した
『^{たま} 多磨^こ っ子^{うた} のうた』が^{きざ} 刻まれています。



＜^{たま} 多磨^こ っ子^{ぞう} の像＞

旧多磨村の小学校の歴史



きゅうにし ふ むら

旧西府村の小学校（府中市立府中第五小学校）

「府中第五小学校（本宿町1-51）」は、府中市の西側、南武線西府駅の南にある小学校です。明治時代の初め、この地域には本宿村・屋敷分村・中河原村・四ツ谷村がありました。その中の屋敷分村（美好町）に、江戸時代から続く手習塾の「石坂塾」がありました。明治5（1872）年の学制により、翌年5月頃に「石坂塾」が「育幼学舎」へと名前が変わりました。この「育幼学舎」が、「府中第五小学校」の始まりです。

「育幼学舎」は明治7（1874）年5月に、小野宮正光院（住吉町3-2）に移ったため、通達により明治8（1875）年8月から「小野学校」と呼ばれるようになりました。その年の児童数は116人でした。

その後、甲州街道沿いに住んでいる人たち（本宿町・西府町・美好町の一部）から、「小野学校」へ通うのが不便だと訴えがあり、明治9（1876）年4月に「本宿学校」（本宿町2-14）がつくられました。地域内に2校できたことで「小野学校」は通う児童が少なくなり、明治11（1878）年9月、「本宿学校」に統合されて、あらたに「奇秀学校」ができました。やっと1校にまとまりましたが、昔から児童が学校に通うのが大変だった四ツ谷村が、明治13（1880）年8月、四ツ谷玉川寺（四谷4-7）に「四ツ谷学校」をつくりました。

明治22（1889）年4月、本宿村・中河原村・四ツ谷村が合併して、西府村ができ

ました。第二次小学校令により、明治25（1892）年4月、校名が「奇秀尋常小学校」と「四ツ谷尋常小学校」に変わりました。同年6月、「奇秀尋常小学校」は児童数が増えたために、共同製糸工場跡地（本宿町2-7-6）に移りました。そして、明治26（1893）年10月、中河原の法音寺（住吉町1-47）に、あらたに「中河原分教場」をつくりました。しかし、明治45（1912）年4月、現在の「府中第五小学校」の場所に「奇秀尋常小学校」の新しい校舎ができると、「中河原分教場」は廃止されました。

昭和2（1927）年4月、「奇秀尋常小学校」に高等科が置かれて、校名が「奇秀尋常高等小学校」に変わりました。また、昭和13（1938）年1月に、「四ツ谷尋常小学校」は「奇秀尋常高等小学校」に統合されましたが、「四ツ谷分教場」として残りました。そして、昭和16（1941）年4月に、「奇秀尋常高等小学校」は「西府国民学校」と校名が変わり、昭和20（1945）年1月に「四ツ谷分教場」は廃止されました。終戦後の昭和22（1947）年3月には、教育基本法・学校教育法が公布されて、4月に「西府村立西府小学校」と校名が変わりました。

昭和29（1954）年4月に、西府村・府中町・多磨村が合併して府中市が誕生しました。校名も「府中市立府中第五小学校」になり、同時に「北山分校」も置かれました。「北山分校」は昭和30（1955）年に「府中市立府中第七小学校」として開校しました。

府中市の人口が増えていくと、新しい学校がつけられるようになりました。昭和43

(1968)年に「住吉小学校」、昭和45(1970)年に「本宿小学校」、昭和49(1974)年に「四谷小学校」、昭和53(1978)年に「日新小学校」ができると、

近くに住んでいる児童は「府中第五

小学校」から学区が変わって、新しい

小学校に通うようになりました。

また、「府中第七小学校」も児童が増

えたため、昭和42(1967)年に「武

蔵台小学校」が新しくつくられました。

「府中第五小学校」の校門を入る

とすぐに大きなクスノキがありま

す。現在の場所に校舎ができた時に



<五小のクスノキ>

植えられ、学校の歴史とともに育ってきた大木は、高さが18メートルになるほど成

長しました。「くすのき」はさまざまな教育活動の愛称としても使われてきました

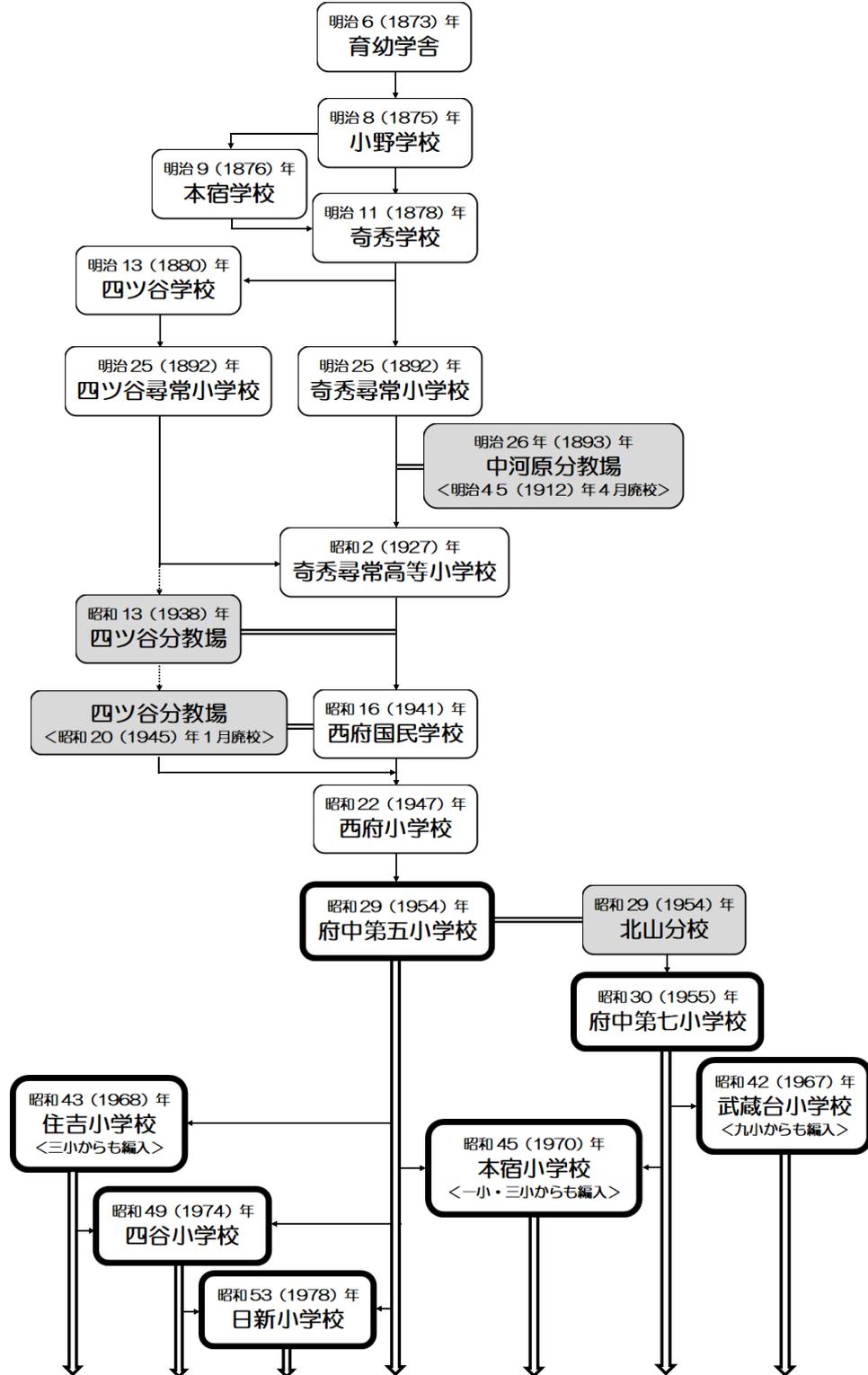
が、現在は「総合的な学習の時間」の愛称として親しまれています。



<五小の校舎(令和2年3月現在)>

旧西府村の小学校の歴史

〈本宿村・屋敷分村・中河原村・四ツ谷村〉



まほろし ちゅう しりつこうこう
幻の府中市立高校？

府中市には、公立高校が5校、私立高校*1が1校あります。現

在の公立高校は、全て東京都が運営をしている「都立」の学校

です。このなかで、「府中高校」がむかし、「市立」の学校だっ

たことを知っていますか？

「府中高校」の歴史は、大正6（1917）年、東京府東京

市本郷区千駄木町（東京都文京区千駄木）につくられた

「東光学園専修商業学校」という私立の学校から始まりま

す。昭和12（1937）年4月、「東光学園」は、当時教師をしていた赤松唯信氏

（後の「東光学園」の理事長・校長）が東京府北多摩郡府中町12325（栄町

3-3-1）に持っていた農園の一部をゆずり受け、学校の農場にしました。

太平洋戦争が始まると、教育に関する戦時非常措置方策（p.19を見てね）によっ

て、昭和19（1944）年4月、「東光学園」は、今までの商業学校から工業学校

に変わります。同年8月には、「赤坂区立赤坂乃木国民学校」の

集団疎開*2児童を学校農場内の学寮*3に受け入れました。昭

和20（1945）年1月28日、戦火により「東光学園」の本郷

校舎が焼失すると、赤松氏は同校の生徒も学寮に受け入れま

す。同年8月に戦争が終わると、11月には「赤坂乃木国民学

*1 公立・私立
東京都が運営している学校は「都立」、市が運営している学校は「市立」といい、「公立学校」です。学校法人が運営している学校は「私立学校」といいます。

*2 疎開
戦争などのとき、被害を避けるために都市の人や物を安全な地方に移すこと。

*3 学寮
学校の寮のこと。

校」の疎開児童は元の学校へ戻っていきました。しかし、東京

都から、引き続き戦災孤児*4のための施設を設置してほしいと

頼まれたため、赤松氏は学校農場内の学寮を『東光学寮』と

名付けて、戦災孤児を保護することになります。

昭和21（1946）年3月1日、府中の『東光学寮』へ天皇

の巡幸*5がありました。その後、赤松氏は女子教育のための学

校をつくることを決めます。同年3月28日には、府中にあっ

た赤松氏の農園を「東光学園」へ寄付します。そして、学校の農

場があった場所に「私立東光高等女学校」がつけられました。

このときの理事長は赤松唯信氏、校長は赤松阿佐氏です。

昭和23（1948）年3月10日、東光学園は赤松学園と名前を変え、校名も「私立

赤松女子高等学校」となりました。

昭和30年頃になると、府中市の人口が増えてきたことで、市内に普通科の高校が必

要となってきます。昭和35（1960）年11月1日、「赤松

女子高校」は、府中市に移管*6され、校名も「東京都府中市

立赤松高等学校」となりました。

しかし、昭和36（1961）年4月1日には、「府中市立赤松高校」は、府中市から

東京都に移管され、「東京都立府中高等学校」と変わります。同年4月、男子46

名、女子48名の合計94名が入学し、5月13日には開校式が行われました。

*4 戦災孤児
戦争の被害によっ
て保護者を失った
子ども。

*5 巡幸
天皇が各地を見回
つて巡ること。府中への
訪問は、終戦後8年
半をかけた昭和天
皇の全国巡幸の一
か所でした。

*6 移管
管理を他に移すこと。

しょうわ 昭和39（1964）年には みなみがわしんこうしゃ かんせい 南側新校舎が完成し、学校のシンボルとなる天文ドームが
できました。また、もう一つのシンボルであるアカマツの木は“府中市の名木百選”
に選ばれています。校内には自然が多く、竹林では毎年、「府中第九小学校」の児童に
よるタケノコ掘りが行われています。



ふ ちゅうこうこう こうしょう 府中高校の校章はマツとケヤキを組み合わせた形をしています。



みなみがわこうしゃ てんもん
〈南側校舎の天文ドーム〉

～ とうこうがくえん あかまつがくえん
 ～ 東光学園から赤松学園、そして府中高校になるまで ～

うんえい 運営	できごと 出来事	
	きゅうふちゅうまち 旧府中町	ほんごうく いま ぶんきょうく 本郷区 (今の文京区)
とうこうがくえん 東光学園	しょうわ 昭和12年4月 (とうこうがくえん がっこうのうじょう 東光学園の学校農場がつくられる)	だいししょう 大正6年 とうこうがくえんせんしゅうしょうぎょうがっこう 東光学園専修商業学校
	↓	↓
	しょうわ 昭和19年8月 (のうじょうない がくりょう しゅうだん そかいじどう 農場内の学寮に集団疎開児童を 受け入れる)	しょうわ 昭和19年4月 (きょういく かん せんじ ひじょうそち 教育に関する戦時非常措置 ほうさくによりこうぎょうがっこう 方策により工業学校となる)
	↓	↓
	しょうわ 昭和20年1月 (とうこうがくえん せいと がくりょう う 東光学園の生徒も学寮へ受け 入れる)	しょうわ 昭和20年1月 こうしゃしょうしつ 校舍焼失
	↓	
	しょうわ 昭和20年8月～ (しゅうせんご とうこうがくりょう せんさいこじ 終戦後も東光学寮で戦災孤児を 保護する)	
↓		
しょうわ 昭和21年3月 (てんのう じゅんこう がっこう 天皇の巡幸をきっかけに学校を つくる) しりつとうこうこうとうじょがっこう ねんせい 私立東光高等女学校 (5年制)		
↓	<div data-bbox="938 1153 1460 1348" data-label="Text"> <p>しょうわ にゅうがくあんない 昭和26年の入学案内によると、 がくねん がっきゅう 1学年1学級 (クラス) でした。</p> </div>	
あかまつがくえん 赤松学園	しょうわ 昭和23年3月 (とうこうがくえん あかまつがくえん か 東光学園から赤松学園に変わり、 がっこうめい か 学校名も変わる) しりつあかまつじょしこうとうがっこう 私立赤松女子高等学校	<div data-bbox="938 1460 1503 1684" data-label="Text"> <p>おおよそ5か月の間だけ存在した ふちゅうしりつあかまつこうとうがっこう 「府中市立赤松高等学校」が、 まぼろし ふちゅうしりつこうこう 幻の府中市立高校だったんだね。</p> </div>
府中市	しょうわ 昭和35年11月 (ふちゅうしりつあかまつこうとうがっこう 府中市へ移管) とうきょうと ふちゅうしりつあかまつこうとうがっこう 東京都府中市立赤松高等学校	
↓	↓	
とうきょうと 東京都	しょうわ 昭和36年4月 (とうきょうと いかん 東京都へ移管) とうきょうと りつふちゅうこうとうがっこう 東京都立府中高等学校	



ぶんしょう きょういくせいど
 文章にあった教育制度と
 おも できごと
 主な出来事をまとめたよ。

ねんごう 年号	ほうれい 法令など	ほんぶん かか ないよう 本文に関わる内容	ほか できごと その他の出来事
明治5 (1872)年	がくせい 学制	ぜんこく がっく わ 全国を学区に分けて小学校がつくられた。 がっこうめい がくしゃ 学校名は「～学舎」とされ、6歳から下等小学校4年、 じょうとう けい ねんかん きょういく きかん 上 等小学校4年の計8年間を 教育の期間とした。	<p>府中はこの時、 かながわけん 神奈川県だったよ。</p> 
明治12 (1879)年	きょういくれい 教育令	がっくせい うんえい ちょうそんしゅたい 学区制をやめて、小学校の運営が町村主体になった。 きょういく きかん き やわ きほんてき 教育の期間の決まりを和らげて、基本的に8年であ るが最短で16カ月とした。その後明治13(1880) 年に改正があった。	<p>明治8(1875)年 けん つうたつ 県からの通達</p> <p>なまえ そんめい しやう 小学校の名前には村名を使用して、 がくしゃ がっこう なまえ へんごう 「～学舎」は「～学校」と名前を変更 することとした。</p>
明治19 (1886)年	だいいちじ 第一次 しょうがっこうれい 小学校令	じんじょう しょうがっこう こうとう だんかい 小学校を尋常小学校と高等学校の2段階として、 じんじょう ぎ むきょういく かてい 尋常小学校を義務教育課程とした。 じんじょう こうとう きょういく きかん 尋常小学校・高等小学校ともに 教育の期間は4年と した。	
明治23 (1890)年	だいにじ 第二次 しょうがっこうれい 小学校令	しちょうそん じどう かす あ じんじょう 市町村が、児童の数に合わせて尋常小学校をつくる こととした。	<p>明治26(1893)年 さんたま とうきやうふ いかん 三多摩の東京府への移管</p>
明治33 (1900)年	だいさんじ 第三次 しょうがっこうれい 小学校令	ぎ むきょういくせいど ぎ むか きやうか むしやう 義務教育制度の義務化が強化され、無償になった。 じんじょう ぎ むきょういく かてい 尋常小学校の4年間で義務教育という「義務教育 の4年制」が実際にできるようになった。 めいし じっさい 明治40(1907)年に一部改正されて、義務教育の きかん えんちやう 期間も6年に延長された。	<p>三多摩地域(北多摩・南多摩・西多摩)が かながわけん とうきやうふ うつ 神奈川県から東京府に移った。</p> <p>大正3(1914)年-大正7(1918)年 だいいちじ せかいたいせん 第一次世界大戦</p> <p>昭和14(1939)年-昭和20(1945)年 だいにじ せかいたいせん 第二次世界大戦</p>
昭和16 (1941)年	こくみんがっこうれい 国民学校令	こくみんがっこう なまえ へんごう 「小学校」から「国民学校」と名前が変更された。 しょうが しょうが しょうが しょうが ねんかん 初等科6年と高等科2年で構成されて、合計8年間 が義務制とされた。しかし、戦争が起こっていたという こともあり、高等科の義務制については終戦後まで じつげん 実現できなかった。	<p>昭和18(1943)年 きょういく かん せんし ひじょう そち ほうさく 教育に関する戦時非常措置方策</p> <p>せんそうちゆう こうとうしょうぎやうがっこう こう 戦争中のため、高等商業学校が高 とうこうぎやうがっこう ないよう ぶん 等工業学校になるという内容が含ま れていた。</p>
昭和22 (1947)年	きょういく きほんほう 教育基本法 がっこうきょういくほう 学校教育法	ぎ むきょういく きかん げんざい おん 義務教育の期間が現在と同じ9年(小学校6年・中学 校3年)と決められた。また、その他に高等学校3年 間・大学4年間を合わせた6・3・3・4制を基本と がっこうせいど する学校制度ができた。	<p>昭和29(1954)年 ふちゅうしせいしこう 府中市制施行</p> <p>きゅうふちゅうまち きゅうた まむら きゅうにしふむら 旧府中町・旧多磨村・旧西府村が がっぺい 合併し、府中市となった。</p>

もっと知りたくなったら読む本のリスト

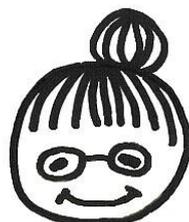
しよめい ほん なまえ 書名 (本の名前)	ちよしゃ ほん か ひと 著者 (本を書いた人)	しゅっぱんねん 出版年	ほん せ 本の背ラベル
きょういくし つうし へん じょうかん 府中市 教育史 通史編 上巻	きょういく い いんかい へん 府中市 教育委員会 / 編	2002	F372/10/7
きょういく あゆ 府中市 教育の歩み	きょういく い いんかい へん 府中市 教育委員会 / 編	2004	F372/10/7
ひやくしゅうねん きねんし 府中市立府中第一小学校 百周年記念誌	きねんし ぶ へん 記念誌部 / 編	1973	F376.2/10/7
ひやくねんし 府中一小 百年誌			
そくりつひやくしゅうねん きねんし 創立百周年記念誌 府中第四小学校	ひやくしゅうねんし へんしゅう い いんかい へん 百周年誌編集委員会 / 編	1974	F376.2/10/7
そくりつひやくしゅうねん きねんし 創立百周年記念誌 府中第四小学校 (簡易版)	ひやくしゅうねん きねんし へんしゅう い いんかい へん 百周年記念誌編集委員会 / 編	1974	F376.2/10/7
ひやくねんし 五小百年史	そくりつひやくしゅう 府中市立府中第五小学校創立百周年 ねん きねん じぎょうきょうさんかい へん 年記念事業協賛会 / 編	1975	F376.2/10/7
くすの木 そくりつひやくにじゅうしゅうねん きねんし 創立百二十周年記念誌 (府中第五小学校)	へん 府中市立府中第五小学校 / 編	1994	F376.2/10/7
こうこう しゅうねんし 府中高校25周年誌	こうこう しゅうねんし へんしゅう い いんかい へん 府中高校25周年誌編集委員会 / 編	1987	F376.4/10/7
こうこう あゆ 府中高校40年の歩み	とうきょう とりつ こうとうがっこう 東京都立府中高等学校	2001	F376.4/10/7
とうきょう とりつ こうとうがっこう 東京都立府中高等学校創立40周年記念誌			

さんこう 参考にしたホームページ

しりつ しりつようちえん いちらん きょういく い いんかい
市立小・中学校、市立幼稚園の一覧 (府中市 教育委員会)
<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/kyoiku/gako/chugakko.html>

とうきょう とりつ こうとうがっこう
東京都立府中高等学校
<http://www.fuchu-h.metro.tokyo.jp/site/zen/>

さがしている本が見つからない時は、
としょかん ひと き
図書館の人に聞いてみましょう。



「むかしの府中の学校」こども府中はかせ No.10

2020年3月発行

府中市立図書館 編集・発行

<https://library.city.fuchu.tokyo.jp/>